

若年認知症社会参加支援センターの運営する ジョイントについて

比留間ちづ子 ジョイント所長

アルツハイマー病やピック病などで、40～50 歳代で発症する若年認知症患者は、推定で 3～5 万人といわれ、さらに漸増傾向にあります。ちょっとした記憶障害、やり慣れたはずのことでの失敗、微妙な性格の変化などに気づいても、うつ病やストレスと誤認したり、まさか……と受診を後回しにしているうちに、早期の発見・治療が遅れてしまうのが現状です。

若年認知症の正しい理解の普及と社会的支援策が緊急の課題です。

若年認知症は壮年期の発症であることから、経済的にも、家庭関係にも打撃が大きいものです。何よりも本人がひとりで状況の打破を試みる孤独な苦渋の期間が続き、いわゆる行動障害を複雑にしていくという経過的問題があります。

しかし、身体能力は維持され、円熟した職業感性や技能も維持され、働くことへのチャレンジ、自分の人生を生きることへの意欲が高いことが特徴といえます。普通の病気や障害をもつ場合と同様に、新たな生き方を応援するといった観点から、フレンドリーで地域的な支援が必要です。



若手認知症の方の描いた絵葉書や手作りの小物の数々を展示・販売しています。各種挨拶状や名刺などの注文もお受けしています

ジョイントは、2007 年度厚生労働省補助金事業で NPO 法人若年認知症サポートセンターが運営し、2008 年 9 月 23 日より NPO 法人に向けて活動しています。就労型活動や地域貢献活動などの社会参加の実践が、社会的孤立と進行予防となり、その人らしい生き方へのソフトランディングをサポートしていくモデルとなっています。

地域のネットワークを開拓し、「ともに輝く地域づくり」のフォーマットを全国に発信したいと考えています。皆さまのご支援をお願いします。

問い合わせ先

●ジョイント 若手認知症社会参加支援センター
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-32-11 山口ビル 3F
Tel 03-5312-0644
Fax 03-3341-7144
E-mail going@mx5.alpha-web.ne.jp